

三河一向一揆についての補足説明

[引用文献・六ツ美風土記、私達のふるさと中之郷、ふるさと六ツ美西部 他]



三河一向一揆の背景

☆一向一揆は、戦国時代に一向宗(真宗)門徒が起こした一揆で、15世紀後半から急激に教団は組織力を強めた他方で領国支配の強化を図る守護大名と対立した

☆三河一向一揆(1563年～1564年)発生の背景

- 当時、三河三ヶ寺・**本證寺**(野寺)、**上宮寺**(佐々木)、**勝鬘寺**(針崎)・**には、守護不入の特権**と言って社寺の領内には大名の支配が及ばないという特権が与えられていた。三ヶ寺傘下にいる小領主たちも同様に不入の権利を持っていた
- 桶狭間の戦い(1560年)後、着々と三河の領国化を進めていた家康は、この特権を認めるわけにはいかず、しばしば不入権をおかして寺に入りこむ事件が起きた
- この行為は、一向門徒にとっては、共通する信仰の危機であり、課税を重くされて生活が困窮するという危機でもあり、不満は爆発寸前であった

三河一向一揆の始まり

- 1563年9月、家康の家老酒井正親の家臣菅沼藤十郎が、兵を引き連れて佐々木の上宮寺に押しかけ、寺の兵糧米を奪った。この暴挙に対して、三ヶ寺が協力し、信徒を動員して兵糧米を奪い返した。この事件から岡崎城に対する一向宗徒の一揆に発展したと伝えられている
- この一揆は、表面的には支配力の拡大をはかる家康と一向宗徒との戦いであったが、裏面的には家康の勢力伸長に反対する吉良東条城主・吉良義昭、八ツ面山城主・荒川義弘もこれに加わって立ち上がるという複雑な内容を持つものであった
- 一揆方は、「法敵退治の軍、進む足は往生極楽、退く足は無限獄」と書いた短冊や大旗を掲げて戦い、家康側の砦に何度も押し寄せた
- 六ツ美地区においても、複雑な形で敵味方に分かれて戦い、平和な穀倉地帯が一変して戦乱の場となった

三河一向一揆・戦いの内容

- 家康は岡崎城にいたが、時には上和田の浄珠院に赴いて戦いの指揮をとった
- 本多広孝は、土井城を固めていて、近くの勝鬘寺や土呂の本宗寺の宗徒、吉良義昭とも戦った
- 上和田城の大久保一族は、大久保忠俊、忠勝、忠員、忠佐等の名のある勇将が多く針崎、土呂の一揆勢と戦った
- 戦いのピークは、翌年1月針崎、土呂、野寺の一揆が総がかりで、上和田城を攻めた時で、まさに落城という時に、家康が家臣を連れて駆けつけ撃退した戦いであった
- やがて一揆勢の中から家康に降伏する者が続出し、1564年2月13日、上宮寺の一揆が岡崎城に攻撃をかけたのを最後に、28日頃までに大体鎮定された
- 吉良義昭、荒川義弘は寺方に、出奔した主な一揆側・・・三河三ヶ寺、土呂の本宗寺、本多正信、渡辺守綱、蜂谷貞次、吉良義昭 荒川義弘、酒井忠直、夏目義信 等
主な家康側・・・浄珠院、上和田・大久保氏、土井・本多氏 等

三河一向一揆後の動き

- 1564年2月、家康と一向宗寺院との和平交渉は上和田の浄珠院で行われた
- 家康は「寺院は元のままに」という条件で和を結んだが、沈静化したと見ると1564年5月一向宗方に改宗を命じた。これに伴い寺院や道場を破壊し、僧侶も追放した。僧たちの約束が違ふという抗議も受け付けず、破却を強行した
- すべてを強力な統制に組み入れ、一揆の再発を防止するという狙いもあり、以後20年間三河では一向宗は禁止された
- 一方、一揆方に加わった武士たちは許された
- 20年後の天正11年(1583年)に、家康の叔母・石川妙春尼の嘆願によって**真宗赦免状**を書き、本願寺派寺院は再興を許された
- この時期の家康は、武田氏を倒し、三河、遠江、駿河、甲斐、信濃の五ヶ国を平定し、揺るぎない地位を築き上げていた

本證寺 (ほんしょうじ)

■所在地: 愛知県安城市野寺町野寺26

■形式: 城郭伽藍 ■築城年: 鎌倉時代 ■築城者: 慶円上人 ■遺構: 碑・鼓楼・土塁・堀

鎌倉時代に慶円上人によって建立された浄土真宗の寺。室町中期になると、本願寺蓮如の布教によって本願寺派に属し、三河本願寺の教団として大きな勢力を誇った。その後、永禄3年(1563年)に起きた三河一向一揆の際に、中心寺院の一つとして徳川家康と対立したため一揆終結後に破却され活動を禁じられたが、天正13年(1585年)に家康の叔母に当たる石川妙春尼の嘆願によって禁制が解かれ再興を果たした。櫓のような鼓楼、山門から本堂を取り囲むようにして残っている水を蓄えた堀、境内の一部に残る土塁。遺構が良好に残っている



本堂



山門



堀

上宮寺

(じょうぐうじ)

■所在地:愛知県岡崎市上佐々木町梅ノ木36

… 三河三ヶ寺 …

聖徳太子の開基からはじまるといわれる。当初は天台宗だったが、後に真宗に改めて15世紀に高田派から本願寺派に改派し、勝鬘寺・本證寺と共に真宗本願寺派三河三ヶ寺と称されて三河・尾張・美濃・伊勢で末寺・道場105を持つ中本山として大きな勢力を誇った。永禄6年(1563年)、西三河の統一を図る松平家康と不入特権を巡って対立し、三河一向一揆の拠点となる。一揆鎮圧後、上宮寺は本願寺派寺院追放命令によって破却されたが、石川妙春尼の嘆願によって再興が認められた



本堂



鐘楼

勝鬘寺 (しょうまんじ) ■所在地：愛知県岡崎市針崎町朱印地3 三河三ヶ寺

三河初の真宗道場として正嘉2年(1258年)に信願房了海によって創建されたことから始まる。当初は矢作川沿いの赤渋にあったが、水害のため明応5年(1496年)に現在地に移転。永禄6年(1563年)に三河一向一揆が起こると一揆方の拠点の一つとなり、渡辺高綱らの門徒武士が境内に立て籠もって家康に背いた。一揆時、勝鬘寺は兵火で大伽藍を焼失したが、天正13年(1585年)に家康の許しを得て再興した。寺院復興と共に末寺・門徒の拡大が進み、浜松・名古屋のほか江戸にも当寺通所・末寺が設けられ、その道場数は、百数十ヶ寺に及んだ。

(当寺には、永禄7年1月針崎で戦死した渡辺高綱の立派な碑がある)



浄珠院

(じょうじゅいん)

■所在地：愛知県岡崎市上和田町北屋敷55

—— 一向三河一揆・松平家康の本陣 ——

三河一向一揆に手を焼いていた家康が本陣を構えて指揮をとった寺。永禄7年(1564年)1月、両軍は上和田城と勝鬘寺の周辺地域で衝突したが、2月になると大久保忠俊や常源などから和議が提案され、本寺において和議が成立した。



山門



本堂

本宗寺

(ほんしゅうじ)

■所在地: 愛知県岡崎市美合町平地50

応仁2年(1468年)に連如上人によって創建される。当初は土呂(福岡町)に建立されていたが、三河一向一揆の一拠点として松平軍に抵抗したため、一向一揆後に破壊されたが、石川妙春尼による再三の嘆願によって現在の場所に再建された。

また、境内には再興に尽力した石川妙春尼と石川数正の墓がある



山門



本堂



石川数正の墓



石川妙春尼の墓